

説 教 第4アドベント（待降節）聖日礼拝 北浜チャーチ  
黒田 禎一郎

2019年12月22日（日）

主 題：「わがたましいは主を崇めます」

—マリア賛歌—

テキスト：ルカ1福音書46～48節

はじめに

- ・今週、私たちはクリスマスを迎えます **“Merry Christmas !”**

今日は第4アドベント聖日です。私たちの教会では、12月1日の第1アドベント礼拝から、「アドベント・リース」のキャンドルに順に点火してきました。今日は、その4本目に点火しました。それぞれのキャンドルには、象徴的意味がありました。復習ですが：各キャンドルは、

- ① 期 待
- ② 備 え
- ③ 光（ともしび）
- ④ 約 束



- ・さて、第4アドベントのキャンドルは「約束」を意味します。クリスマスに誕生した赤子イエスは、約束の子でした。時代を超え、文化を超え、民族を超え、世界の多数の人々に記念されている誕生です。実は、このお方の誕生こそ、神の「約束」でした。イスラエルの民は、その約束の成就を期待していました。当時のイスラエルはローマ帝国の支配下にあり、自分たちを解放してくれるメシヤ誕生の「約束」が成就することを望んでいました。
- ・神は真実なお方で、約束された事を必ず果たされるお方です。人格を持つ神のご性格は、約束を果たす真実なお方です。今日の聖書テキストは、イエスの母となったマリアのストーリーです。神はマリアに「祝福の約束」をされました。
- ・このテキストでは、その前の文脈からお分かりのように、エリザベスは、「マリアの胎に宿っている子は神の祝福を受ける」、と伝えました。マリアがその言葉を受けて歌った賛美、それが「マニフィカート」、すなわち「マリア賛歌」と呼ばれるものです。ルカ福音書はこう記録しています。

1:46 マリアは言った。「私のたましいは主をあがめ、

1:47 私の霊は私の救い主である神をたたえます。

1:48 この卑しいはしために目を留めてくださったからです。ご覧ください。今から後、どの時代の人々も私を幸いな者と呼ぶでしょう。

- ・この「マリア賛歌」は、3部構成からなっています。

- 1) 神のあわれみをたたえる 47－50節
- 2) 神の全権をたたえる 51－53節
- 3) イスラエルの神の真実 54－55節

- ・マリアはいったいどんな人物であったのでしょうか？ 今日、私たちは前半の「マリア賛歌」を掘り下げて、主のみ声を聞いていきたいと願います。

## 大切なポイント

### 1 わがたましいは主をあがめます

1) 「わが魂」とはなんでしょうか。 聖書は、人は主に三つから構成されると教えています。⇒ 「体」、「心」(魂)、「霊」です

- ・魂には「思考」・「感情」・「意志」の三つがありますが、マリアはこの3点で心が動かされました。そして神を崇めました。神を崇めるとは、マルチン・ルター訳ドイツ語聖書によれば、「主を高く上げる」(Meine Seele erhebt den Herrn)です。では、彼女は「思考」・「感情」・「意志」で「主を高く上げる」とは、どういうことでしょうか。

⇒ 全身全霊で神を崇める

ここにマリア純粹、素朴な信仰を見ることができます。

- ・私たちは、果たしてこの3点で神を崇めているのでしょうか。

三つの内、一つで、あるいは二つはあるかも知れません。マリアはこの3点で主を崇めました。これはマリアが主の祝福を受け、いかに神の霊(御霊)に満たされていたかが分かります。

2) なぜ、彼女はそのように主を崇めたのでしょうか。

- ・彼女は人生で特別なことを経験したからでしょうか。なぜ、魂の奥底から主を崇めることができたのでしょうか。マリアはまだ年若く(12歳から15歳?)、人生経験も浅かったのです。
- ・しかも彼女は、まだ結婚もしていませんでした。今でいう未婚の母になろうとしていました。ユダヤの社会では、「世間体が悪い!」どころではありません。周りの笑い者となり、社会から除外されることは確実でした。
- ・しかし、彼女は天使の言葉、またエリザベスの言葉を受けて、魂から主を崇めたのでした。不思議ですね。それは、彼女が胎に子を宿したという知らせを、神からのメッセージとして受け入れたからでした。ここに彼女の素朴な信仰を見ることができます。

3) マリアは不安、恐れもあつたに違いありません。しかし、マリアは信仰で受け入れ違っていました。彼女は出産という大仕事(母の務め)を、喜んで受けいれました。彼女はこう言いました。

1:48 この卑しいはしために目を留めてくださったからです。ご覧ください。今から後、どの時代の人々も私を幸いな者と呼ぶでしょう。

- ・マリアは自分を「はしため」(仕える者) —Niedrigkeit seiner Magd [独語]— と呼びました。小さな「しもべ」にすぎない。選ばれた自分は、決してだれより勝っている者ではないということも、分かっていました。マリアは、自分の姿が見えていた人でした。
- ・皆さん。世の中は、一般的に優れた人を選ぶものです。しかし神はご自分の わざを行われる時、普通の人を選ばれるのです。超優秀人物を選ぶものではありません。それは誰も誇るがないためです。

### {例 話}

- ・世間では、一流、二流、三流という言葉があります。道を究めている人のことです。しかし超一流に育てようとするなら、少なくとも2つの条件が必要とされています。
  - ① よいコーチを持つこと ⇒ 必ずしも耳ざわりの良いことばかりを言う人ではありません。痛み、苦しみが伴うものです。超一流の人を造るのに、良いコーチは必要です。
  - ② よいライバルに恵まれること。
    - ⇒良い競争心は人を磨き、育てます
- ・マリアはその意味で、決して超一流ではありませんでした。人口百人少々の小村ナザレ村出身者でした。当時のことわざで、「ナザレから何の良い者が出るだろうか」と言われたほどでした。彼女は言いました。
 

1:48 この卑しいはしために目を留めてくださったからです。

Niedrigkeit seiner Magd [独語]：神のはしための中で最も低い立場です。
- ・マリアはそのような人物でした。彼女は魂の深いところから、主を崇めました。

## 2. 神を信じる者の幸い

### 1) 状態（不幸）を受け留めた

- ・すでに申し上げたように、マリアの立場は当時のユダヤ社会では不幸な立場にありました。決して容認されるような、周りから歓迎されるような立場ではありませんでした。またイエスを宿して生むということは、自分が選んだものではありませんでした。ただ上から一方的に臨んだことでした。
 

彼女はとまどい、不安を覚えたことは当然でしょう。それでも彼女は、状態（不幸）を受け止めました。
- ・私たちは好ましい状態で、賛美することは出来ます。しかし彼女はそうではありませんでした。神を真に信頼したからこそ、出来たと思います。
 

1:46 マリアは言った。「私のたましいは主をあがめ、  
1:47 私の霊は私の救い主である神をたたえます。

彼女は、つづいて次のように賛美した。

### 2) 「自分を幸いな者」と言った

1:48 今から後、どの時代の人々も私を幸いな者と呼ぶでしょう。

- ・ここの日本語訳は弱く響きます。原語は「私を賛美するでしょう」となっています。この聖句は誤解を与えやすい箇所でもあります。つまり、マリアはメシアを生んだ母であるから偉大であるという理解です。では、「今から後、どの時代の人々も私を幸いな者と呼ぶでしょう。」とは、一体どんな意味でしょうか。マリヤの本心は次のようではなかったでしょうか。
  - ① マリアはメシアの母として、選ばれるに値しない者であると分かっていました。彼女

は、それにふさわしい者ではないと十分承知していました。彼女は、「この卑しいはしのために目を留めてくださったからです。(1:48)と 言いました。それにもかかわらず、「この卑しいはしのために目を留めてくださったからです。」と言いました。

- ・それはただ神の祝福、恵みです。だから私は、幸いな者であるというのです。

## ② 栄光が自分の身に現れること

- ・神の栄光が自分の身を通して、イスラエルの民と世界の民（異邦人）に現れることです。主こそ大いなるお方、主こそ崇められ礼拝を受けるに値するお方です。主の栄光が自分（Niedrigkeit seiner Magd）を通して現れるのです。 イエスは、ヨハネの福音書でこう言われました。

15:15 わたしはもう、あなたがたをしもべとは呼びません。しもべなら主人が何をするのか知らないからです。わたしはあなたがたを友と呼びました。父から聞いたことをすべて、あなたがたには知らせたからです。

- ・もう、しもべではなく、友と呼びましたと言われました。何ということでしょうか。しもべで身分の低い者が、天地を造られた神の友と呼ばれる立場に入れられたのです。
- ・マリアこの2点で、「今から後、どの時代の人々も私を幸いな者と呼ぶでしょう。」と、賛美しました。

## 3) 神を信じる者の姿を見る

- ・ここに、神を信じる者の姿を、マリアの内に学ぶことができます。すなわち、

① 私たちも、選ばれるに値する者ではないという事実。

② もうひとつは、栄光が自分の身を通して現れるということ。

- ・神を信じる者とは、この2点を持って歩む人ではないでしょうか。

主は毎日、毎時間、いや毎分、私たちに目を留めてくだっています。なんとこの感謝なことではありませんか。これは全能の神がなされることです。詩篇作者は、次のように歌いました。

126:1 【主】がシオンを復興してくださったとき私たちは夢を見ている者のようであった。

126:2 そのとき私たちの口は笑いで満たされ私たちの舌は喜びの叫びで満たされた。そのとき諸国の人々は言った。「【主】は彼らのために大いなることをなされた。」

126:3 【主】が私たちのために大いなることをなされたので私たちは喜んだ。

- ・これは奴隷であったイスラエルの民が、バビロン捕囚から解放された時に、歓喜に包まれ、このように神を賛美した詩です。

{例 話} 1970年代、

- ・かつてシベリヤから祖国ドイツへ帰還したドイツ人 Gerhard Hamm 世界巡回伝道師は、私にこの聖句を引用し語ってくれました。私は彼を忘れることができません。終身刑を受け、死ぬまでシベリヤに収容所から出られないと宣告された人が、今ドイツという自由国にいるのです。

- ・信じられない！と、彼は涙声で語ってくれました。

「主が私たちために大いなることをなされたので私たちは喜んだ。」 126:3

- ・ここに本当に神を信じる者が、体験した幸いな証しがあります。夢ではありません。夢

のような現実です。⇒ ただ神の恵みです。

- ・全能の神がこれを成してくださいました。神はこの卑しいはしための身に、このようなわざをなされたのです。マリアは言いました。

1:49 「力ある方が、私に大きなことをしてくださったからです。その御名は聖なるもの」

- ・皆さん！ 注目してください！

マリアはここで先〔未来〕を見ています

⇒ 「今から後、どの時代の人々も私を幸いな者と呼ぶでしょう。」

なんという大胆な言葉ではありませんか。

{例 話} 10年先の予測がつかない時代

- ・30年前は「ベルリンの壁」が崩壊
  - ・20年前はポケベルの時代
  - ・10年前は便利な携帯電話（スマホ）の時代
  - ・今は、インターネットが世界を変え、AI時代へ
- ・しかし、先は分かりません。誰も先はまったく不明です。

神は昔も、現在も、そして未来も変わらないお方です。

- ・ヘブル人への手紙

13:8 イエス・キリストは、昨日も今日も、とこしえに変わることがありません。

- ・エペソ人への手紙

3:18 すべての聖徒たちとともに、その広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解する力を持つようになり、

3:19 人知をはるかに超えたキリストの愛を知ることができますように。そのようにして、神の満ちあふれる豊かさにまで、あなたがたが満たされますように。

- ・神を信じる人は、先（未来）への視点を持つことができます。

それはいつまで変わらない神が、マリアに目を留めてられたように、あなたにも目を留めておられるからです。私は選ばれるに値しないような者であります。しかし、今私はこの礼拝に招かれているのです。

- ・神はマリアを通して栄光を現されたように、これから先、神はあなたを通して栄光を現そうと願っておられます。何と幸いなことでしょうか。神を信じる人とは、先（未来）のことも、信仰で受け止める人のことです。

主である神を信頼しましょう！

## ま と め

主 題：「わがたましいは主を崇めます」

—マリア賛歌—

- ・今日はクリスマス礼拝を迎えました。イエスの母マリアは、神に向かい「マリア賛歌」と呼ばれる「マニフィカート」を、声高く賛美しました。

1:46 マリアは言った。「私のたましいは主をあがめ、

1:47 私の霊は私の救い主である神をたたえます。」

- マリアはどんな女性でしたでしょうか。 ⇒ 普通の女性でした。  
いつまでも変わらない神を信じる人は、マリアのように祝福に与ることができます。その条件は、
  1. 今の状態（不幸）を信仰で受け留めること
  2. 先の状態（未来）も信仰で受け留めること主の祝福がありますように！
- God bless you !